模擬問題

2024後期・社福国試対策

ソーシャルワークの理論と方法・専門（115～123＋⑪）

115 インフォーマルなサポートに関する次の記述のうち，**最も適切なものを1つ選びなさい。**

1．インフォーマルなサポートは，継続的，安定的，普遍的な性質をもつ。
2．インフォーマルなサポートは愛他主義に基づいており，その反対の排他主義に変化することはない。
3．インフォーマルなサポートは，生活の気づきから個別的で多様な支え方を生み出すことができる。
4．インフォーマルなサポートは，資源不足に対する代替案として活用できるように専門職が指導する。
5．インフォーマルなサポートは，専門職業的な支援観でクライエントとかかわる。

116 相談援助過程における目標設定に関する次の記述のうち，**最も適切なものを1つ選びなさい。**

1．クライエントの個人の価値観や文化に沿った目標を設定する。
2．曖昧な目標を設定することにより，達成の可能性を高める。
3．クライエントが現実に直面することを回避するために，抽象的な目標を設定する。
4．援助計画を立案した後に目標を設定する。
5．正確な評価を行うために，援助の終結まで目標の修正は行わない。

117 グループワークに関する次の記述のうち，**適切なものを1つ選びなさい。**

1．グループワークの源流は，慈善組織協会の友愛訪問活動に求めることができる。
2．ジェネラリスト・ソーシャルワークの体系化が進んだことにより，グループワークの活用は不要となった。
3．グループワークでは，個人の問題解決よりもグループ全体の課題解決を優先する。
4．グループメンバー間の相互作用とプログラム活動は，グループワーク特有の援助媒体である。
5．グループワークは，ケースワークで問題解決が図られないケースに対して効果を発揮する。

118 D君（14歳）は，母親が病気のために入退院を繰り返しているため，出生後に乳児院に入所し，その後，児童養護施設で生活している。進路決定の時期になったので，児童養護施設のE職員はD君と面接を行った。D君は，「高校には行かない」「施設を出てアパートを借りる」と話した。中学卒業後にはどのようなことをしたいのかを尋ねたところ，「自分で働くしかないだろう。誰も頼りにできないんだよ」と感情的に言った。

次の記述のうち，この面接でのバイステックの原則に基づいたE職員の関わりとして**最も適切なものを1つ選びなさい。**

1．個別化の原則に基づき，D君と同じくらいの学力の先輩が通学している高校への入学を勧める。
2．統制された情緒的関与の原則に基づき，D君の感情が収まるようになだめる。
3．意図的な感情表出の原則に基づき，E職員の率直な気持ちをD君に伝える。
4．非審判的態度の原則に基づき，D君の話を聴きながら，具体的な希望について尋ねる。
5．自己決定の原則に基づき，D君の決定を認めてその場で退所の手続きを進める。

119 事例を読んで，医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）が行ったアセスメント内容として，**適切なものを2つ選びなさい。**

〔事 例〕

Fさん（81歳，女性）は自宅で転倒して骨折と診断され，入院して治療を受けていたが，入院後に昼夜逆転や独語，物忘れなどの認知症状が出現してきた。主治医から治療が終了したので退院を促されている。Fさんは娘のGさん（58歳）と二人暮らしである。Fさんの夫は2年前に他界したが，その際は自宅でGさんが介護を行って看取った。Fさんには他県に住む息子がいるが，入院してから1回面会に来た程度である。Gさんは，Fさんの認知症状が出現したのは病院の対応のせいだと病院のスタッフに訴えており，Fさんへのケアのやり方についても看護師と意見が対立することがあった。また，日夜GさんはFさんに付き添っているが，Fさんのこれまでと違う言動に対して時折声を荒げる場面も見られる。医療ソーシャルワーカーは医師から退院支援の依頼を受け，Gさんと面接を行った。Gさんは「いずれ母を住み慣れた自宅へ連れて帰りたい。父を看取った経験から母の介護もしたいが，時々母にどう接したらよいのかわからない」と話した。

1．Gさんが介護の知識や経験に自信をもっていることは，退院後の介護の強みとなる。

2．Gさんは母であるFさんを思う気持ちと，Fさんの認知症状に対する驚きや不安を抱えている。

3．Gさんはキーパーソンとして適切でないので，Fさんの息子と面接を行うこととする。

4．Gさんの年齢では，親の介護ではなく自分の仕事を優先したほうが良い。

5．GさんはFさんを虐待する可能性があるため，Fさんは施設入所する必要がある。

120 事例を読んで，J相談員（社会福祉士）の対応として**最も適切なものを1つ選びなさい。**

〔事 例〕

家庭児童相談室に電話があり，J相談員が対応した。電話をかけてきたのは女性である。女性は「夫と子どものことで困っているのですが，ここでは相談にのってもらえるのですか」「相談していることが夫にわかったら困ります。親や友達にも知られたくありません。必ず秘密が守れますか」と話し出した。

1．「とりあえず最初に名前と住所を教えてください。ここの相談室の決まりです。」

2．「絶対に秘密を守って問題を解決します。私に任せてください。」

3．「ここで話されたことは最大限守られます。必要があってあなたのことについて他と相談する場合は，あなたに了解を得てからにします。」

4．「ご主人から暴力を受けているんですね。それではご主人に知られないようにしましょう。」

5．「まずは相談室に来られる日を教えてください。お会いして話を聞きましょう。」

121 アウトリーチに関する次の記述のうち，**最も適切なものを1つ選びなさい。**

1．クライエントが感じている問題ではなく，ワーカーが認識している問題に焦点をあて，そこにクライエントに共感してもらう。

2．クライエントを理解するための情報収集を行うためには，クライエントの自宅よりも相談機関の面談室で面接を行う。

3．支援が開始されたら，アウトリーチを終了する。

4．地域住民とのつながりを構築することも含む。

5．所属機関の理解よりもワーカー個人の技術が求められる。

122 ケースカンファレンスに関する次の記述のうち，**最も適切なものを1つ選びなさい。**

1．職員の教育・研修の機会となる。

2．専門性の向上のため，単一の専門職が集まっておこなう。

3．カンファレンスでの発言を活発化させるために，事例提供者とコーディネーターとの事前の打ち合わせはおこなわない。

4．クライエントや家族は必ず同席する。

5．その日のうちに課題を解決するために，時間をかけて議論を行う。

123 事例を読んで，社会福祉協議会のY福祉活動専門員（社会福祉士）の対応として，**最も適切なものを2つ**選びなさい。

〔事 例〕

W市社会福祉協議会では，一人暮らしの高齢者から，ゴミ出しが困難で家にゴミが溜まってしまったり，ゴミ出しの分別や曜日がわからなくなってしまってゴミを出すことが不安となるという相談を何件か受けていた。そこでW市社会福祉協議会では，Y福祉活動専門員が中心となり，ゴミ出し支援のボランティアの養成を開始した。

1．ゴミ出し支援が必要な高齢者の近所の人の中から，ボランティアに適切な人を選出する。

2．ボランティアを希望する人が受講するための，福祉や介護に関する研修を企画する。

3．住民や民生・児童委員，福祉サービス事業所への周知活動を行う。

4．個人情報保護のため，ボランティアには担当する高齢者の氏名がわからないようにする。

5．ボランティアがゴミ出し支援の最中に高齢者の異変に気付いた場合，ボランティア同士で解決するように指示する。

① 事例を読んで，Kスクールソーシャルワーカー（社会福祉士）の対応に関する次の記述のうち，**最も適切なものを1つ選びなさい。**

〔事 例〕

M中学校では，不登校の子どもをもつ親をメンバーとした集まりを開催しており，Kスクールソーシャルワーカーが関わっている。集まりが開始してから2か月経過したある日の集まりで，参加者のLさんが「この会で他のお母さんと情報交換できたことは有意義だが，相変わらず親子関係は変わらず，何の問題解決もできていない」と話した。

1．雰囲気を保つために，Lさんに別室に移動してもらい個別対応をする。

2．集まりで得た情報を自宅で実践した上での発言かをLさんに確認する。

3．Lさんの要望はこの集まりの目的とは異なるので，他の会を紹介する。

4．現状でのLさん親子に適切な問題解決策を提案する。

5．Lさんの意見を受け止め，他の参加者はどのような思いをもっているかを話し合うこととする。

② 事例を読んで，R実習指導者（社会福祉士）の対応に関する次の記述のうち，**適切なものを2つ選びなさい。**

〔事 例〕

Sさんは，障害者支援施設での実習を開始して1週間目である。Sさんは緊張しながらもできるだけ利用者とコミュニケーションを取ろうと努めているが，利用者は応じてくれなかったり，利用者の反応をSさんが理解できなかったり，時には利用者を怒らせてしまうことがあり，どのようにコミュニケーションを取ったらよいのか悩んでいた。そこで施設のR実習指導者に相談した。

1．できるだけ多くSさんから話しかけるように助言する。

2．技術には理論も必要となるため，学校で使用している教科書を再読するよう促す。

3．他の実習生と一緒に実習に関する意見交換をする機会をもうける。

4．利用者とコミュニケーションを取れないのは障害の特性上仕方がないことだと説明し，安心してもらう。

5．Sさんの努力を認め，どのような場面があったのか具体的に聞く。

③ 事例を読んで，福祉事務所のT現業員（社会福祉士）のエンパワメントアプローチの視点に基づいた対応として，**最も適切なものを1つ選びなさい。**

〔事 例〕

Uさん（56歳，男性）は若い頃から植木職人として働いていた。しかし脳腫瘍により視力が低下し視覚障害の認定を受け，仕事を続けられなくなった。30代で離婚をしていて元妻と子供とは疎遠である。再就職のための活動は思うようにいかず，貯金は底をついてきたため，生活保護を受給することとなった。ある日，T現業員がUさん宅を訪問すると，Uさんは「何かできる仕事を見つけて働きたい。そして，生活保護を受けなくても生活できるようになりたい」と話した。

1．生活保護を受給しなくてもよくなるように，元妻や子供の支援を受けるように促す。

2．Uさんができる仕事を見つけられるように，T現業員も一緒に方法を考えていくことを伝える。

3．就職活動がうまくいかなかった原因に焦点をあてて，Uさんを指導する。

4．生活保護を受給する権利があるので，仕事を探す必要はないことを伝えて安心してもらう。

5．年齢や障害から，今から新しい仕事を覚えるのは不可能であることを丁寧に説明する。

④ スーパービジョンに関する次の記述のうち，最も適切なものを1つ選びなさい。

1．ある特定の領域についての知識技術が必要な時，その領域の専門家から助言指導を受けるためには，ピアスーパービジョンを依頼する。

2．スーパーバイザーが不在の時には，仲間や同僚だけで行うグループ・スーパービジョンを実施する。

3．個人スーパービジョンでは，個々のスーパーバイジーの課題や力量，状況に応じて丁寧に対応することができる。

4．スーパーバイジーは職場の上司で，スーパーバイザーはその部下であることが多い。

5．パラレルプロセスを予防するためには，スーパーバイザーとスーパーバイジーがよい関係性をもつことが重要である。

⑤ インフォーマルな社会資源に関する次の記述のうち，適切なものを2つ選びなさい。

1．フォーマルな社会資源に比べて安定性に欠ける。

2．自治体や社会福祉法人によって提供される。

3．フォーマルな社会資源に比べて，融通性が低い。

4．フォーマルな社会資源に比べて，専門性が高い。

5．近隣住民や友人によって提供される。

⑥ 事例を読んで，K市家庭児童相談室のH職員（社会福祉士）が用いた面接技法として，最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

Eさん（32歳，女性）は，6歳（男児）と1歳（男児）の子どもの子育て中である。ある日，K市家庭児童相談室へ相談に訪れ，H職員が対応した。Eさんは，「最近，お兄ちゃんが下の子をいじめてばかりいるんです。それで私，お兄ちゃんばかり怒ってしまって。でもお兄ちゃんのこと，本当は私…」と言って下を向いた。H職員は「Eさんは上のお子さんのことを，本当はどう思われているんでしょうか。」とたずねた。

1．閉ざされた質問

2．アイメッセージ

3．単純な反射

4．開かれた質問

5．明確化

⑦ 事例を読んで，Aソーシャルワーカー（社会福祉士）が行うジェネラリスト・ソーシャルワークの視点に基づいた対応として，最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

AソーシャルワーカーはNPO法人で女性支援を行っている。ある日，街で夜間の見回りをした際にGさん（21歳，女性）に出会った。Gさんは，妊娠していることがわかり家にいられなくなって家を飛び出してきており，夜は街で知り合った人たちの家を渡り歩いているという。Gさんは，子どもを産みたいがどうしたらいいかわからないと話した。

1．Gさんの心理的な課題に特化してアセスメントを行う。

2．Aソーシャルワーカーの所属している法人では母子の支援を行っていないことを説明して，相談に対応できないことを謝罪する。

3．一人で子育てすることの困難さについて理解できるように話す。

4．夜間，街を歩くのは危険であることを説明する。

5．Gさんの思いや家族や知人との関係性を聴きながら，今後の対応を一緒に考えていく。

⑧ 事例を読んで，もの忘れ外来を開設しているクリニックのT医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）によるこの時点での対応に関する次の記述のうち，最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

T医療ソーシャルワーカーは，家族を介護している男性の相談が増えてきたことを感じており，また彼らがとまどいや不安を感じながら周囲との付き合いがあまりないことが気になっていた。そこで男性の介護者たちの不安を軽減し介護をしながら自分らしい生活を送ってもらうことを目的に，「男性介護者の会」を設立して集団を活用した支援を実施することとした。

1．参加者に対して先入観をもたないように，事前に参加者の情報を把握しないこととする。

2．会の中で実施するプログラム活動の成功に貢献できる参加者を選ぶ。

3．参加者が話しやすい環境が確保される場所が使用できるかを確認する。

4．参加者が気兼ねせずに話すことができるように，会が開始したらT社会福祉士は参加しないこととする。

5．参加者が適切に参加できるようにサブグループを決定する。

⑨ 事例を読んで，担当者会議でのH相談支援専門員（社会福祉士）の対応に関する次の記述のうち，最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

軽度の知的障害のあるKさん（29歳，男性）は，入所していた施設を退所してアパートでの生活を開始した。H相談支援専門員がKさんに生活の様子を尋ねると，最初は不安だったが，ヘルパーの支援を受けながら買い物などの外出ができることが楽しくなってきたと話した。そこでKさんの支援の方向性を確認するために，KさんやKさんの家族と関係者を集めて，担当者会議を開催することとした。

1．Kさんが家族の元に帰って生活できることを説明する。

2．これからは支援を受けずに自分の力で生活するように説得する。

3．ヘルパー利用時のKさんの様子を担当事業者に報告してもらう。

4．新設したグループホームの入所を提案する。

5．会議を円滑に進めるために，H相談支援専門員がKさんの思いをKさんに代わって説明する。

⑩ 事例を読んで，G介護支援専門員（社会福祉士）の対応に関する次の記述のうち，最も適切なものを1つ選びなさい。

〔事 例〕

Bさん（74歳，女性）は介護保険サービスを利用しながら一人暮らしをしている。Bさんのケアマネジメントを担当しているG介護支援専門員は，Bさんが利用している通所介護の担当者から，最近Bさんが通所介護を休みがちであるとの連絡を受けた。そこでG介護支援専門員は，Bさんの様子を確認するためにBさん宅を訪問した。

1．Bさんの自宅により近い他の通所介護に変更する。

2．サービス担当者会議で通所介護の利用が決定したことを，再度説明する。

3．Bさんの最近の様子を聴き取りする。

4．来週から通所介護に通うように説得する。

5．他の利用者は休まずに通所介護を利用していることを伝えてBさんを励ます。

(11) 事例を読んで，地域包括支援センターのA管理者（社会福祉士）によるM社会福祉士に対する対応のうち，適切なものを2つ選びなさい。

〔事 例〕

Fさん（81歳，男性）は妻を亡くしてから一人暮らしである。1か月前に，Fさんが以前より痩せて衣服の状態も不潔になっていることを心配した近所の人から地域包括支援センターに相談があり，M社会福祉士が訪問を継続している。M社会福祉士が訪問するとFさんは「困っていることはないので，もう来ていただかなくても結構です」と話すが，最初に訪問した頃よりも立ち上がりなどに苦労している様子が気になっていた。M社会福祉士は必要性を感じるものの支援ができないことに悩み，上司のA管理者に相談した。

1．M社会福祉士が具体的にどのようなことで悩んでいるかを傾聴する。

2．Fさんの言葉の背景について考えてみるようM社会福祉士に促す。

3．Fさんは心配な状態なのでしっかりと見守りをするように助言する。

4．Fさんの意思を尊重して，訪問を中止するように指示する。

5．現在空きのある特別養護老人ホームについてM社会福祉士に情報提供する。